

OB会 だより



定年後の人生・・・

新しい道に挑戦し、輝いている仲間がたくさんいる。

そのひとり 小宮 マキ子さん 「手芸・小物作り」に挑戦だ。

現役中は余裕もなかったもので、ほとんど針をもつこともなく過ごしてきた。その反動か、退職と同時に今まで考えたこともなかった「小物作り」をはじめた。その一つがパッチワークをつかっての小物作り、布は母の思いでの着物が多い。これらは母を偲びながらの制作である。

ブローチ、ポシェット、大小のバック、ペンケース、財布、裁縫箱、タペストリー、帽子等何でも。他人の作品をみては自分も作りたくなる。下手の横好きで、結構大雑把だが、それなりに気に入って、飽きもせず夜な夜なの仕事として続いている。自分の思いのまま、好きなことを自由自在にできることを幸せだと思う。

(小宮さんは大井協同診療所に勤務していました)

新入会員紹介

東嵐朝子です。よろしくおねがいします



埼玉協同病院・リハビリ科に勤務していた理学療法士の東嵐（旧姓遠藤）です。協同病院では、一人一人のお年寄りに手を差し伸べることによって、皆さんすごく元気になっていくし、長生きできることを学びました。この協同病院の経験を原点に、介護の現場を自分たちでやりたいとの思いから、一緒に働いていた仲間や地域の人たちと事業を始めました。デイサービス、ケアプラン作成、ホームヘルパー派遣などが主な仕事ですが、狭山と上尾の二か所でやっています。今日は狭山、明日は上尾といったように、毎日忙しく飛び回っています。OB会の一員として仲間入りし、皆さんの様子もお聞きしながらつながりを大事にしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。また、私たちの施設も見に来てください。

埼玉民医連退職者の会 第24回総会

元気な顔、初めての顔、45名が参加



第24回総会は2月11日、医療生協さいたまふれあい会館で開かれ、45名が参加しました。8日の大雪で秩父の高橋昭雄先生、田代健太郎さん、日立市の山形文子先生はじめ参加予定の方が6名も参加することができなくなりました。

一方で、総会は初めてという新しい参加者が4名あったのはうれしいことです。

小野敏さんの開会挨拶、議長に伊藤幸夫・前田文代さん、書記に仲村敬子さんを選出しました。富田孝博会長の挨拶、昨年亡くなった馬場文三さん、高橋旦さんに全員で黙とうをささげました。また、喜寿のお祝は佐藤良子さん、水野久子さんのおふたりでした。退職者の会全国連絡会、埼玉民医連・山田昌樹会長からのメッセージの紹介に続いて、1年間のまとめと2014年度方針（小川事務局長）、決算・予算（小嶋次長）、監査報告（権田監査）、役員（富田会長）の提案があり、討議ののち、すべての議案が採択されました。

2005年から事務局長・幹事として活躍された高橋喜長さんが退任の挨拶、朝妻幸平さんの閉会のことばで第一部を終了しました。



喜寿のお祝いの 水野久子さん（上）
佐藤良子さん

“元気な第一世代”の皆さんの発言を紹介します。



*肥田舜太郎さん ~ 朝食・昼食を自分で作っている。目玉焼きとトマトの湯むきが上手になった。政府はオリンピックのため、福島は何の影響もないと躍起になって演出しているが、現地の苦ししみは大きい。10年先、20年先に恐ろしい被害がはっきりしてくる。5月に全国のOB会総会で講演をすることになった。民医連OB会のみなさんは放射能障害について地域の専門家になれるよう勉強してほしい。



*大久保忠一さん ~ 赤旗新聞の「ふれだいこ」に投稿したら、埼玉・チュウさんで掲載された。

元旦初詠

暗雲を蹴散らして行く千里馬に 永遠の平和に初日ほほえむ
名護市長選

「新基地ノー」に乾杯・・・稲嶺陣営

「新基地ノー」に完敗・・・自民・末松陣営

今、即興で一句

三途の川 清流豊富で渡れない これが私の元気の秘訣です。



*権田圭助さん ~ 埼玉民医連創立 60 周年集会に参加した。創立総会に参加 33 名のうち、現在残っている 6 名のうちの一人です。当時レッドパーズで追われていた私は、伊藤明という別の名前で記録されている。診療が終わってからの開会で、閉会は明け方の午前 4 時になった。そういう時代だった。

*寺島萬里子さん ~ 大井医院で医師として働き始めて 1 か月後に医師免許が届いた。そういう時代だった。占領政策のため、多くの仲間が名前を隠して活動していた。共産党が合法になったときは本当にうれしかった。今は写真撮影はやめて、水野昌雄先生について短歌を学んでいる。



*映像による 1 年間の活動、ホームページ表紙の紹介（金子仁志さん）、新婦人朗読小組の朗読「茶いろの朝」、全員の記念撮影、恒例の「私の趣味・お楽しみ展」の鑑賞、そして懇親交流へと続きました。地域での活動や近況報告の中、大出徳子さんが“美空ひばり”を熱唱、一段と盛り上がりました。

来年は、初参加の人、初出展の人がふえるよう呼びかけを強めたいと思います





私の趣味・
作品展

今年も22名の方から力作が寄せられ、会場が一段と華やかになりました。絵画・書道・写真などと共に、「ゆずジャム」や「ちぎり絵」などの新しい作品、4人による朗読劇など日頃の楽しみが伝わってくるひとときをみんなで楽しみ、元気をわかちあいました。





長い間 ありがとうございました

高橋 喜長



思い起こすと、こともあろうに「埼玉民医連退職者の会」の事務局長というタイ役を受けたのは、第15回総会の直前に荒井光明事務局長が急逝されたのがきっかけでした。幹事会で後任に押され固辞したものの、幹事会が「みんなで応援するから」にほだされて、事務局長・幹事として12年間になりました。長い間ありがとうございました。

当時35人前後だった会員が、24回総会では137人。現役の頃の仲間がOB会総会でお会いできるようになり、退職したら「OB会へ」みたいなつながりが生まれてきました。一緒にご努力いただいた皆さんに心から感謝いたします。私は幹事を退任しますが、健康づくりと明るい街づくりは一生続きます。「元気で100歳」めざして「頑張ります。これからもよろしく願いいたします。

初めて参加 心がほっかり暖かく

時田 規矩子



楽しい旅の企画にはたびたび参加させていただいていますが、今回初めて総会に出席しました。総会では、大先輩の肥田舜太郎先生のますますお元気なこと、びっくりです。家では「主夫」もなさり、この先講演会の予定もおありとか・・・大久保さんはA新聞の「ふれだいこ」欄に投稿、掲載されるなど若い頭の持ち主にも感動です。なつかしい方々にもお会いでき、楽しい時を過ごしました。また作品展によせられた皆様の作品、どれも力作で素晴らしかったです。多才な方が多いんですネ。この日はとても寒い日でしたが、心がほっかり暖かくなり、家路につきました。

旅行が楽しそう 次回はぜひ参加を！

三浦 むつ子



退職者の会には退職前から入っていましたが、総会に参加するのは初めてでした。なかなか日程も合わなかったのですが、山形先生の年賀状でのお誘いもあって参加しました。参加して懐かしい方や、最近お会いしていない方々が大勢いらして、元気なお姿を拝見し大変嬉しく思いました。記録的な大雪のため肝心の山形先生や秩父の方は欠席になってしまいました。舜太郎先生や寺島先生をはじめ、皆さんの近況報告を聞いて良かったです。

突然亡くなられた高橋旦さんを偲びご冥福をお祈りしたり、お見舞いの報告などもあり、退職者についてまわる運命ですが、仲間のいる心強さを感じました。体調を崩された高橋喜長さんの話もあり、元気に頑張っている様子に励まされました。

何と言っても皆さんの旅行の話はとても楽しそうで、次回はぜひ参加させていただきたいと思いました。たくさん作品もあり、いつの間にこんなにと感心しました。

みなさんが残り時間を無駄にせず、元気に前向きに生きている姿に感動させられた時間でした。

OB会総会に参加して

富田 厚子



今年も、「あら！しばらくっ、元気だった？」と挨拶がかわされ、和やかな雰囲気の中で過ごした時間はたちまち過ぎた。

実は総会直前にAさんから退会の話があったので気落ちしていた。彼女が言うには「面倒くさくなった」という。OB会って何だろうと悶々としていた。確かにそんな時もある。だがそうやって段々はすしたらどうなるだろうか。寂しくなるのでは？ 私はなんとなく総会を待ち望んでいる。誰に逢えるとか、話したいとかはないが、何かワクワク感が生まれるのです。なぜか？「いわば同じ釜の飯を」の心境でしょう。大袈裟に言えば私の唯一の軌跡でもあるのだ。今回も、みんなの元気な姿を見て喜ばしく楽しかった。それに高齢になり、弱ったり、不自由になっていく事等も、共有し合えるのは、たがいに人としての生きざまを感じたりして良いのではと思っている。

元気と大きな刺激をもらった総会

若杉 博



2年ぶりの参加で、多くの方の元気な姿に接し、何気ない会話の中で「仲間意識」を感じました。

埼玉民医連草創期の大先輩である第一世代ともいえる肥田医師、寺島医師、大久保（忠）さん、権田さんの当時の苦労話と近況報告は、ゆるぎない信念と確固たる思想が貫かれているなと感動しました。とりわけ、肥田医師が97歳の高齢にもかかわらず、今では日本で唯一の被爆医師として、反核・平和の活動に取り組まれていること、「福島原発事故の影響が、今は目に見えなくとも。30年、40年経って必ず深刻な事態をもたらす。民医連に関わった一人一人が、平和と反核の問題で常に関心を持ち、地域の中で声をあげて行ってほしい」とのお話は心に残りました。ともすれば身の回りの雑事に振り回され「日常に埋没」している私にとって、元気と大きな刺激をもらった総会でした。



第24回総会の感想

私の今昔物語

大久保 忠一

手渡された議案書を見て、一瞬目を見張った。そこには写真集の表紙のようなハヶ岳の美しい秋色風景が議案書の表紙を彩っていたのだ。固い内容とはちょっとかけ離れていて美しい絵本を見るような爽やかさを味わった。

発足から24年の歳月の流れ、後輩たちの現代感覚を「イヤ」というほど見せつけられました。

発足当時の会員は24名、結成総会参加者は14名。会場の看板や議案書は荒井光明さんが一人で苦労され達筆のザラ紙4~5枚程度だった。

総会会場も組合員・職員が利用する本部・ふれあい会館の広い会議室で開かれた。正面が演壇・議長席、左側に役員席、入口の両側には会員の趣味の絵画・書・写真などの作品が所狭しと展示され、参加者の観賞に彩りを添えていた。24年の時の流れが演出した総会風景です。今は存在しない正直屋の一室での総会。アー 感無量！

会長も初代が肥田舜太郎先生、次いで高橋昭雄先生、三代目に小生（大久保）、次いで櫻庭宏一さん、田代健太郎さん、そして現在の富田孝博さん、三代目までは埼玉民医連結成に参加、その民医連も昨年60周年を迎えた。

OB会の初代層には、前記の三名と寺島萬里子先生、権田圭助さん、石田道男さん達と人数も少なくなった。結成当時の多くの世話人がすでに鬼籍に入られた。

また、波乱万丈の生涯を送った宮沢良行さん、埼玉民医連事務局長の櫻庭宏一さん、高橋旦さんや馬場文ちゃんも小生より先にいかれた。議案書によれば会員の58%が60歳代のみなさんです。

来年はOB会結成25周年。2015年は意義ある節目の年です。

敗戦後70年、広島・長崎の原爆投下から70年、特に広島の被爆医師として原爆被爆の実相を訴えて世界を駆け巡った肥田先生にとっては、かけがえのない年でありましょう。

第24回総会に参加し、小生の今日的生きがいを改めて感じました。役員のみなさんには健康に留意し元気に頑張ってください。これからも面倒をおかけすると思いますがその節はよろしくお願いいたします。

訃報

昨年の12月30日、高橋旦さんが埼玉西協同病院で

亡くなりました。享年87歳でした。

旦さんとの思い出を3人からいただきました。

高橋 旦さんを偲んで

石田 道男

昨年末、高橋旦さんが亡くなりました。

このことを知ったのは1月中旬だった。旦さんが所沢に帰ってきて入院加療ということは知らされていた。しかし最後まで会えなかったことが残念だ。

私は1952年~1962年の間、所沢にいなかった。

旦さんと初めて会ったのは1962年の秋だ。当時、旦さんの家に仮の赤旗出張所があり、その家で所沢の知人たちと会議をしていた。私は、東京へ出て印刷出版関係で働こうとしていた。ところが夜遅く私の家に、富岡診療所の伊藤淳先生と当時所沢診療所事務長だった高橋旦さんが来た。どうしても東京に出るのかと、あらためて問い詰められた。

所沢の民主運動のなかでも、私の戦後の活動ともつながりの深い、農村地域の富岡できわだって深く地域の人たちに慕われ、守られてきた「診療所」の現場で働いてほしいと徹夜で「説得」された。お二人の厳しいけれども何とも胸を揺り動かすような「説得」に、朝の陽が明るくなる頃、私はどうしても「応えなければ」という気にさせられた。

旦さん、今でも私は覚えている。「患者の立場に」立って「いのち」と「くらし」を守る・・・という決意のこもった「説得」を。



鎮魂 旦さん お世話になりました

権田 圭助

高橋旦さんが亡くなったらしいとの電話が小川さんからあり、本当にびっくりしました。あわてて何人かの方に連絡をとりました。

私は北海道で療養中とばかり思っていたのですが、かなり前に所沢に戻ってきて「さんとめ」に入所しており、重体となって西協同病院で亡くなられたことがわかりました。

なぜもっと早くわからなかったのか、一目でもいい、お見舞いにかけてお会いしたかったと痛恨の思いでいっぱいです。

旦さんは1983年、停滞していた旧入間医療生協の再生をめざし、専務理事に就任。理事長を大島慶一郎氏から、伊藤淳氏に交代するなど理事会体制を補強し、大井協同診療所（有床）建設に全力をかたむけました。しかし診療所の新築落成直後に、不幸にも深刻な経営危機を招き、責任を取り専務を私と交代せざるを得ない緊急事態となりました。旦さんの心境はどんなに厳しかったことでしょう。

再建の努力の中での、旦さんの配慮に心から感謝します。

旦さん ご苦労様でしたね。ほんとうにお世話になりました。



旦さんと走って!

神作 信男

旦さんとは1980年に「埼玉明るく走る会」を赤旗のスポーツ欄と首都圏版の宣伝で立ち上げ、20余名の会員が毎月別所沼公園で走りました。また秋には秋ヶ瀬マラソン大会を数百名の参加で20余年間おこないました。大会前日は当時の北浦和・領家の県連事務所に泊まり込んだものです。夏には寄居でマラソン合宿を当時の学習会館でおこない釜伏山に走ってのぼりました。また当時休眠状態だった新体連埼玉県連盟の活性化にむけて旦さんが理事長で私が事務局長でとりくみ、スポーツ祭典には埼玉県と埼玉県教育委員会の後援をもらったものです。4年前に札幌の病院より葉書がきて元気とのことでした。旦さん安らかに。

「大雪特集」

2月に降った大雪は大きな爪痕を残しました。秩父では数日間にわたって孤立状態の地域も。皆さんの地域はいかがでしたか。大雪助け合いセンターを設置したところもあるなど。こんな時の対策を考えるのは“今でしょ！”とばかりに、助け合いの道も探りませんか。各地の様子です。

秩父では・・・

山本 康男

- * 2月15日6時現在、秩父市で98cmの積雪との事。小鹿野町ではすでに1mを越えています、息子の車がスッポリと埋まったままです。除雪ができず、人かい作戦で家の周辺を雪かきしました。10時、やっと一人一人が通れるようになりました。駐車場は3台の車が埋まったままです。
- * 17日、ようやく道路が車一台だけ通れるように除雪されたので、灯油や食料を買いに出かけました。食べ物もなくなっちゃいました。仕事の配置薬訪問もできず休業です。



車も雪の中 どこかな？



雪に囲まれた道の駅

- * 21日、バスがやっと動き始めました。ゴミ収集も明日から、西武鉄道も全線開通。
- * 23日、まだ積雪が35cmも。昨日は30名の応援があり除雪。掃いた雪が大きな雪だるまになっています。雪の捨て場はセメント工場跡地になりましたが、そのための車の手配が大変。訪問看護ステーションでは、トラック3台で五万円かかったとの事です。299号線沿いの「道の駅・芦ヶ久保」も雪の山、店も閉店、閑散としています。タクシーも夕方6時で営業終了、足の確保も大変。

飯能では・・・

伊藤 英子

2月8日からの雪は9日の朝まで、40cm位積もった。夫は6時頃から雪かきしている。

私も起きだして手伝う。車を掘り出して駐車場から道路までの雪をとりあえず除ける。当日、夫は川越で眞墨会（書道教室）の10周年パーティがあり、どうしても出席したいとのこと9時頃駅まで送っていく。バス通りでも除雪ができていず、スタッドレスは履い



ているものの尻を振りながら恐る恐る慎重に運転する。帰宅後も一人でひき続き道路の雪かきで体はクタクタ。

50年に一度の大雪が、一週間もたたないうちに再び、今度は60cm位積もる。早朝配達のためと4時から9時まで雪かきをしても、車は出られず道路の雪も人力ではムリ。配達は一時的にきりめて自治会長をしている関係から一人暮らしの人の安否確認をしながら町内をまわる。みんな雪かきに出ている。カーポートが雪でつぶされ中の車まで被害にあったり、その雪が玄関まで埋め尽くして助けだしたり。自治会館の裏山の杉の木が途中から折れ、20mくらいの丸太が自治会館の屋根を直撃し、電話線にも触れている。地主を探し出し、対処をお願いしたり、NTTに連絡したり・・・毎日の雪かきに、日ごろ鍛えている体も悲鳴を上げている。今日3月21日現在でも山影の雪は消えず残っている。

ハヶ岳山麓では・・・

芝崎 明

ハヶ岳山麓は、毎年ある程度の雪は降りますが、今年の2月は数十年に一度という豪雪を経験しました。深夜からしんしんと雪が積もり始め、職場を午前中で早退し帰途に就いた頃には四駆の車がやっと通れる状態で、翌日には1.5m程積り、完全に雪の中に閉じ込められました。3日目になり、除雪された幹線までの150mの道のりを人が通れるだけの幅を手作業で雪かきをして



やっと出勤できました。

こうした中でも日頃からお付き合いをしている近隣の方が一緒に雪かきに駆けつけてくださったり、建設業の隣組の方が重機で除雪してくださったりと、地域のコミュニティーの大切さを痛感する出来事でした。

こんな雪は初めてですが日々暖かくなり、春から夏へと一番いい季節の到来を楽しみに待っています。



蔵王では・・・

浦川 恵子

蔵王での初めての冬。スノーシューで新雪遊び、温まる温泉と懐かしい宮城弁、おいしい豆腐。そんな田舎生活を楽しんでいた2月に、何十年ぶりかの大雪。大工さんいわく「想定外だっちゃ〜！」

我が家は除雪された町道から約100m入った所にあり、ちょっとした陸の孤島に。夫がまずスノーシューで人が通れる道作り。その後、スコップで車一台通れる道作り。大きなスコップが早速役に立ちました。埋まっていたコンポストを掘り出し、やっと生ごみの始末もできました。ライフラインは無事、食料も買ったばかりだったので安心材料で



した。ただ、屋根からのツラウを放置。「朝陽があたってきれい！」とのん気に喜んでいたら、雨どいが壊れてしまいました。

今日、散歩に行き路の墓を見つけました。雪が残る蔵王にも、春が近づいています。松川のほとりの桜を楽しみしているこの頃です。



掘った道を初運行

シリーズ
事業所訪問

昨年から取り組まれている事業所の「60周年を祝うつどい」の特集です。所沢診療所・さいわい診療所・埼玉西協同病院の様子を紹介します。

《所沢診療所》 つながって ひろがって 60年

山口 昭子

所沢診療所開設60周年記念式典は、昨年11月に所診の健康まつりと同日開催されました。願ってもない祭り日和で、新規事業の予定地（現在は設計業者も決定）は、約1,000人の人で賑わいました。

西部地区制になって、支部も4支部増え、会場は、大変盛り上がる中、町内会長や、各来賓などの挨拶と、神谷理事長から歴史のながれや、現在の状況などを、とても分かりやすい話がされました。又、地域の伝統まつり囃子に始まり、支部のフラダンスや、年金者組合のうたごえ、太極拳など盛沢山の舞台と、バザー、展示コーナー、模擬店、健康チェックなどの、取り組みがあり、60周年行事と建設のスタートにも弾みがついた一日でした。



《さいわい診療所》 開設60周年記念式典に参加して

梅原 恭子

懐かしい組合員さんにお会いできればという気持ちで参加しました。もしかすると、今回はお目にかかれなかなと思っていたご高齢のIさんにもお会いでき感激。川口医療センターの院長 栃木武一先生のご挨拶が特に印象に残りました。医療生協さいたま（さいわい診療所、協同病院）が地域で果たしている役割や今後の期待、連携などに触れ、祝賀の気持ちとこれから共に頑張っていきたいという気持ちが、ストレートに伝わって

くる内容だったと思います。このような挨拶を引き出した60年の歩みを思い浮かべながら聞き入りました。在宅や健診、慢性疾患、救急医療などの分野ごとに診療所に期待し、注文することを61年目のスタートの意味もあるのですから、組合員（患者）に代表して発言していただく方法も式典が引き締まってよかったのではと思いました。在職時代、さいわい診療所芸能部のプロデューサーを仰せつかったものとしては、開会の素晴らしい和太鼓、歌声もあって、バランスのとれた良い式典であったと、えらそーですが合格点をつけさせていただきます。



地域とともに60年！ 昨日 今日 明日 << 埼玉西協同病院 >>

岡部 和子

埼玉西協同病院60周年記念式典は、一昨年秋、市民文化センター“ミューズ”で335人が参加して開催されました。当日配布された記念誌には、歴代院長の言葉、8支部の活動が載っているなど立派な冊子です。コーラスや富岡診療所の歴史「麦と芋」の朗読から始まり、所沢医師会長をはじめ、日頃連携している近隣の医師会の先生方からご挨拶をいただきました。

「地域と共に60年！ 昨日 今日 明日」と題したトークでは、富岡診療所開設時の様子を石田道男氏が話され、西協同病院初代院長の肥田泰先生からは開設時の苦労話や、息子さんか民医連の医師として西協同病院に勤務されたこと等喜びの伝わってくるお話でした。西協同病院移転・老健さんとの同時建設に取り組んだ当時の白井元理事からは、大変な中にも組合員さんの力に支えられ完成したという話に胸が熱くなりました。最後に清水禮二先生のお話から、60年の歴史を築いてこられた医師をはじめ皆さんの奮闘ぶりがヒシヒシと伝わり、あらためて感謝の思いでいっぱいです。清水先生は最後に、当時所沢診療所のCWだった柳下礼子県会議員に「埼玉に来なさい」と声をかけられ、肥田先生と何度も話しあった末入職を決心したこと、伊藤淳先生が地域の人々の命を守るため最後まで奮闘されたこと。これらが私の人生において貴重な経験だったと。地域の安心・新しいこれからを作っていく上で、生活協同組合が大事だと話されました。先生の熱い思いが会場の皆さんと一緒に、共に涙した60周年記念の日でした。

昨年10月、行われた行田協立診療所の60周年式典で、馬場文三さん直筆の資料が配布されました。印刷の関係であの懐かしい文字はお届けできませんが、肥田先生の奮闘ぶりとともに読んでください。

貧しい人たちの支援を得て

馬場 文三

行田協立診療所が、1953年4月、にわかに出現した時、市民はびっくりした。「肥田という赤い医者が東京からやってきた」ということだったからだが、びっくりしなかった人々

もかなりいたように覚えている。行田は城下町、保守的あるいは封建的というのが一般的な認識であったが、歴史的にみれば、戦前既に繊維（足袋）労働者のかなり激烈な闘争が記録されているし、その当時の風土が未だに多く残っていた。

朝鮮特需や、その後の「神武景気」と呼ばれた時もあったが、それらはあくまでも一部の人たちだけの景気であって、市民の多くは貧しかった。その貧しい人たちが主に行田診療所を支持したのである。たちまち待合室はおろか、庭にまで患者が溢れるようになり、患家がまるで病室のようになっていった。



私の覚えでは、まだ「裏長屋」と呼ばれる居住集団があちこちにあり、「肺病」と呼ばれた結核患者が少々大げさに言えば無数にいた。行田診療所の医療活動の拠点はそんな所にあったと思う。

その当時、ある患者が「肥田先生は肺病退治にきたんだ」といったのを覚えている。そうだったかもしれない。

私はいつも診療所の周辺を院外団のようにつけめぐっていたが、1955年から56年にかけて職員だったことがある。診療代は殆ど益暮れ勘定、それだって満足に集金できなかった。今から考えるとよく経営できたと思うのだが。

55年の大晦日の夜10時ころ、ある家に集金に向かった。夫婦と子ども4~5人の世帯だったと思う。火の気があったか無かったか、暗く寒々とした裸電球の下に一家が固まっていた。カミさんが私の顔を見ると「アノー」といった。それだけで私は何もかも了解した。外へでて溜息をついた。その家のオヤジはいつも咳き込んでいた。肥田先生が退治の対象とした病気の持ち主だったのである。

集金できなかった大晦日の深夜というより新しい年の未明に、夜泣き蕎麦屋を診療所の庭に呼び込み、みんなで食べたラーメンとしたたかに飲んだ焼酎の味は今も忘れずに残っている。破れかぶれのような医療活動であったかも知れないが、民衆のための医療活動の原点がそこにあったのではないかと、当時を振り返って今思うのである。

やがて肥田先生は「手のかかる貧しい患者」を中心にした市民の圧倒的支持を得て颯爽と市議会に進出するのである。

会員通信から

私の近況

*** 吉原 恵美子 ***

高橋旦さんが12月に亡くなっていたことを赤旗で知りました。旦さんが事務長をしていた大井協同診療所に働いています。旦さんが住んでいた所沢診療所で働きました。歴史が忘れられないよう、語り継いでいかななくてはと思いました。

*** 山本 康男 ***

配置薬の仕事しながら紙風船をサービスに配っている。中学生7人にあげたら、みんな元気に騒ぎ出し、「あの子どもたちが、こんなに騒ぐのはめずらしい」と担任の先生感心していた。紙風船を懐かしく思いだす世代、紙風船を知らない若い世代。そして配置薬の利用者以外の人「昔を思い出し懐かしい。私も欲しい」等みんなが喜んでくれる。自己負担の営業努力だが、ここから会話が始まる。



**** 高橋昭雄 ****

2014.1.30 妻の一周忌。ようやく独居、自炊に慣れました。案外頑張れたものですが、友人がどんどん亡くなっていくのでそれが何とも。

患者さんから「正丸峠」の続編をと要望されているのですが、死ぬまでにできるかどうか。一つの目標です。

わが守るは五十八年 秩父にて心燃やせと妻の墓なり

妻を祀る無名戦士の墓にして 三・一八「パリ・コンミュン」に

それにしても、高橋旦さんが亡くなってしまったとは！

彼は埼玉民医連だとして、荒井光明さんとともに見事に困難な裏役を背負った方で、最大の功労者だと思います。それなりの表に出せない辛い苦勞話も聴きたかった。私の愚痴も安心して聞いてくれた友でした。残念です。

**** 千野 章夫 ****

総会に参加できず申し訳ありませんでした。いつもOB会だよりでみなさんの近況を知ることができ、毎回毎号が楽しみです。今年古希を迎えます。健康とは言えませんが、散歩などで体を動かしています。久子は病院通いで、医師と薬の世話になりながら過ごしています。我が家の前が通学路なので、孫たちも週の半分は寄って宿題をやり帰ります。その時は賑やかで台風のようなのです。来てよし、帰ってよしですが、日々成長していく孫たちが楽しみです。立春を過ぎての大雪には驚かされました。カーポート、車などの被害を受け修理には数か月かかるといわれています。近況を写真にして送ります。



福寿草

雪に埋もれながらも

かき分けて黄色い花を。



黒鷲の雄姿

散歩の途中で思わずカメラを



鍛冶屋の石灯籠

子供の頃を思い出させる

**** 石丸 乾二 ****

ダイヤ「改正」で運行が終了する最後の寝台特急

「あけぼの」に別れを惜しむ

朝6：40大宮駅には1000人もの鉄道ファンが。

カメラやスマートフォンで見送る「撮りテツ」。

残るブルートレインは「北斗星」、「トワイライトエクスプレス」、車体が青くない寝台特急は、「カシオペア」「サンライズ出雲」、「サンライズ瀬戸」。

新幹線網がひろがれば在来線の「名物列車」が次々と廃止に。



特定健診無料化と 緊急連絡システム設置料無料化 実現しました。

朝妻 幸平

特定健診無料化の取り組み

新座市は健診制度が特定健診に変わる際に受診料を1,000円としました。「自治体訪問行動」の一環として5年間にわたり市と懇談を重ねてきましたが、「国保財政が厳しい」等の理由で無料化は困難との回答が続きました。特定健診の受診率が30%前後を推移していることから、市から「受診率向上のため、今年度から無料化する」と回答がありました。

緊急通報システム設置料無料化の取り組み

昨年市内で起こった「孤独死事故」をきっかけに、高齢者の命を守る施策の一つ「緊急連絡システム設置の無料化」を求めてきました。今年度の懇談でも、設置の無料化を訴えたところ、市から「2014年4月から1853万円931人分を予算化した。所得制限なし、65歳以上の希望者に無料で設置する」の返事がありました。

朝妻さんからの一言（新座支部社保担当）

「自分たちの街を誰もが安心して暮らせる街にしたい」そんな思いで粘り強く働きかけてきたことが要求実現への大きな力になりました。昨年度から実施されている「高校3年生までの医療費無料化」「すべてのがん健診の無料化」に続いての要求実現です。これからも引き続きがんばります。みなさん！一緒に力を合わせましょう。



入間OB会

3月16日、旧入間OB会の昼食会を開催しました。

23名のOBが久しぶりに集まり、中華料理をいただきました。

「久しぶり、元気？」「変わらないね、若く見えるよ」「痩せたね、病気したの？」みんな元気で会えることの喜びをかみしめました。返信はがきで、出席出来なかった方の近況も披露され、なつかしさいっぱいひと時でした。最高齢は85歳、一年に一回は会えるようにしようと確認しました。西村 米子



各地の動き

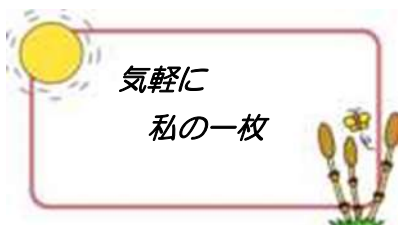


浦診OB会

3月31日、10名で高尾山へ行ってきました。

高尾山駅で2コース（徒歩・リフト各5名）。私は

当然リフト組へ。高所恐怖症なので12分は長かった。待ち合わせ場所は薬王院、ゆっくり歩いてベンチに座っていると徒歩組が到着。階段がきついというので薬王院裏道から展望台へ。みんなで弁当を広げていると隣のカップルから良い匂い。「何ですか」と聞くと「チーズフォンデュ」だった。すごいねと感心。高尾山デビュー3名。展望台からのくっきり大きな富士山を見たのは初めて、いつも展望台パネルから富士山の位置確認ばかりでしたから。小嶋 美智子



お見事！ 2年目の開花
富田 厚子



「つらら」 朝陽が当たってきれい！
浦川 恵子



散歩道は桜が満開 小田 政満



「二か所のお花見」
浦和・玉蔵院（上）と幸手・権現堂堤（右）
石丸 乾二



あとがき

総会と大雪のあとの今号は、16ページの豊富ななかみになりました。記事の一つひとつに会員の「きずな」が感じられます。大切に最後までお読みいただけますようお願いいたします。（け）

＊＊ 石丸 乾二

ダイヤ「改正」で運行終了する最後の寝台特急
「あけぼの」に別れを惜しむ。

朝6：40大宮駅には1000人ももの鉄道ファンが。
カメラやスマートフォンで見送る「撮りテツ」。
残るブルートレインは「北斗星」、「トワイライトエ
クスプレス」、車体が青くない寝台特急は「カシオペ
ア」

「サンライズ出雲」、「サンライズ瀬戸」。

新幹線網がひろがれば在来線の「名物列車」が次々と廃止に。

